日本環境衛生センター　隔月広報紙

JESC-INFO

2025年 12月号

本年もお世話になりました
新しい年も　皆さまにとって
素晴らしい年になりますように

本内容に関する問合せ先：
一般財団法人 日本環境衛生センター　管理部広報課
TEL: 044-288-5095,　　Email: koho@jesc.or.jp

未来への新たな一歩に向けて、ミッション・ビジョン・バリュー（MVV）を策定しました

当センターは、積み重ねてきた信頼とつながりを大切に、MVVを羅針盤として、これからもみなさまと共に未来への挑戦を続けてまいります。

Mission

環境衛生分野の専門性と誠実さを礎に、課題解決を通じて、持続可能な社会の実現に貢献する

Vision

人・知・技術をつなげ、地域とともに未来を創る信頼のパートナー

Value

・未来を見据えて挑戦する
・課題に真摯に向き合う
・専門性を磨き続ける
・感謝の気持ちと喜びを大切にする

第69回 生活と環境全国大会

10月16日、17日の2日間開催。ご協力いただきました皆様、ご来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。　　＊オンデマンド配信中！詳しくは２ページへ

●開催地：フォレスト仙台（宮城県仙台市）
●テーマ：サステナブルな未来を創る ―地域レジリエンスと脱炭素への挑戦―
●目　的：環境、廃棄物・資源循環、生活衛生の分野に携わる行政、産業界、市民等の関係者が、顕彰と交流を通じて環境保全の普及啓発や情報交換を行う。
●来場者数：延べ1,590人
●次回開催予定：2026年10月21日・22日＠ソニックシティ（埼玉県さいたま市）

大会のハイライト－１日目－

大会式典・特別講演

式典では、大会長の奥村より開会挨拶を行い、環境省の松澤裕参与より特別講演をいただきました。松澤参与は、昨年閣議決定された第5次循環型社会形成推進基本計画に触れ、政府全体でサーキュラーエコノミーを推進すること等話されました。
続く環境大臣表彰、厚生労働省健康・生活衛生局長感謝状、生活と環境全国大会長感謝状の表彰式では、受賞者お一人おひとりに、壇上で賞状を手渡し敬意を表しました。

生活と環境展示会（両日開催）

15企業・団体等による展示会を開催しました。式典・特別講演後に訪れた来場者により賑わいました。廃棄物相談コーナーでは、藤原理事と藤吉常勤顧問が廃棄物処理施設整備・運営に関する相談に応じ、14団体にお越しいただきました。

交流会

約100名の方にご参加いただき、懇親を深めていただきました。

大会のハイライト
－２日目－

廃棄物公開講座＊　テーマ：脱炭素化を見据え、入札契約の手引き改訂を踏まえた一般廃棄物処理施設（整備・運営）の発注の動向

＊全国環境衛生・廃棄物関係課長会共催

持続可能な廃棄物処理に向けて情報提供を行いました。
東北大学大学院の吉岡教授と環境省廃棄物適正処理推進企画官の福井氏に講演をいただきました。続けて大会開催地である東北地方を中心にパネリストを迎え、仙台市(今泉工場建替事業：事業発注前)、新潟市(新亀田清掃センターの整備・運営事業：実施設計段階)、札幌市(駒岡清掃工場更新：運営事業開始)から各段階での状況について発表をいただいたのち、現状と今後の課題をテーマに施設の整備及び運営に向けた留意点や工夫点等についてディスカッションが行われました。

生活衛生公開講座＊　テーマ：大規模災害への備え

＊全国環境衛生・廃棄物関係課長会共催

大規模災害を経験した自治体の取り組みを共有し、来たる災害に備えるための講演と座談会を開催。
東日本大震災を経た仙台市より①東日本大震災における避難所等での対応、②自助・共助で取組む“防災”の2講演をいただき、Team Sendaiには東日本大震災の経験を風化させないための活動について伝承いただきました。最新の災害時対応については、石川県より能登半島地震での環境衛生監視員の対応についてご講演いただきました。座談会では、全ての講師に登壇いただき「大規模災害への備え」について座談会を開きました。

環境保全公開講座　テーマ：東北のチカラ・レジリエントな未来を拓け

震災復興と脱炭素化を両立させる活動を行っている国、自治体、団体の5名から取り組みを紹介していただきました。
東日本大震災から14年が経過し、東北地方は再生可能エネルギーや地域資源を活かした持続可能なまちづくりを進めています。今回の講演では、国の政策と地域の創意工夫が結びつき、農林水産業や観光、エネルギー、食文化など多様な分野で新しい価値を生み出している事例が語られました。これらの取り組みは、災害に強く、環境にやさしい未来を切り拓く「東北モデル」として、全国に広がる可能性を秘めています。

廃棄物最新処理技術セミナー

廃棄物処理施設のプラントメーカーが熱回収施設におけるデジタル技術の導入状況について、下記の内容を発表しました。

●カナデビア：現場作業支援のためのデジタルツールによる新しい業務プロセスの提案　●タクマ：デジタル技術のごみ焼却施設への適用　●JFEエンジニアリング：熱回収施設におけるデジタル技術の導入状況　●神鋼環境ソリューション：ごみクレーン自動運転システムの高度化　●日鉄エンジニアリング：Think Platform®のご紹介　●荏原環境プラント：デジタル技術の活用によるごみ焼却施設の連転自動化・高度化にむけた取り組み　●川崎重工業：汎用AIによるAI運転支援システムの運用状況

事例研究発表会（全国環境衛生職員団体協議会との共催）

行政上の調査研究成果等について、全１４題の口演発表をいただきました。最優秀発表賞は「超音波式ミスト発生機能を有するインテリア用品によるレジオネラ症の集団感染事例について」（東京都多摩小平保健所山﨑智沙）。

生活と環境全国大会ページでオンデマンド配信中！
＊要登録。登録メールアドレスに視聴URLをお送りします＊

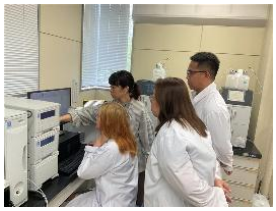
活動報告

9月～10月　食ロス削減推進事業
西日本支局が佐賀県の委託を受け、県内イベントでキャンペーンカーを展示。食品ロスに関する啓発PRやポイントラリーを実施しました。

9月16日　シンポジウム
「高病原性鳥インフルエンザとオオクロバエ」
環境生物・住環境部主催。センターから同部橋本部長ら3名が運営。大学や自治体、研究所等から専門家を招き、参加者には半日かけてテーマを深めていただきました。

9月26日～9月28日　日本ダニ学会第34回大会
環境生物・住環境部橋本部長が参加しました。

10月6日～10日 TNT
& Capacity Building Program研修
ACAPにて2023年度から実施。今回は、EANET参加国の中国、フィリピン、ロシア、タイの研修生に大気質モニタリングとデータ管理に関する研修を行いました。



10月7日　一般廃棄物・
資源循環基礎研修
南川理事長が「廃棄物行政の歴史と循環型社会の形成に向けて」と題して講義を行いました。

10月7日　岩手県市町村清掃協議会
藤原理事が「リチウムイオン電池等の混入による事故（リチウムイオン電池由来の発火・火災事故）」、環境工学第二部山口課長代理が「下水道処理場へのし尿等投入処理等、今後のし尿処理の課題等について」と題して講演。

10月18日～26日　第26回
「エネルギー・環境問題研究会」海外調査団
NPO法人都市環境フォーラムが主催する海外調査団（団長：藤吉常勤顧問）にて、アイルランドやイギリス等をを訪問。海外の施設の特徴を知る施設見学等を行い、現地コンサルタントとの意見交換をしました。藤原理事が参加。

10月22日　(一社)全国清掃事業連合会
令和７年度全国研修大会
南川理事長が出席。同会特別顧問を務めています。

10月30日　ごみ焼却余熱有効利用促進
市町村等連絡協議会　技術研修会
藤原理事が「資源循環を踏まえ脱炭素社会に向けたごみ処理の今後の展望と課題」について講演。

11月1日　吉野川市環境センター（徳島県）落成式
環境工学第一部施工管理課が施工監理を行っていた同市のごみ処理施設が正式稼働しました。式には星野理事が出席し、感謝状をいただきました。

11月1日～2日　第76回東日本衛生動物学会
東日本支部大会
環境生物・住環境部橋本部長が「ヒョウヒダニ類飼育培地の攪乱とダニの這い出し行動」について発表。
＊「国内のネッタイトコジラミにおけるピレスロイド系殺虫剤抵抗性遺伝子保有状況（第１報）（共同研究者：橋本 知幸、皆川 恵子、數間 亨）」についても発表がありました。

11月6日　(一社)環境衛生施設維持管理業協会(JEMA)
事業所管理者講習
藤原理事が「ごみ処理施設の事故(リチウムイオン電池由来の発火・火災事故)」、環境工学第一部寺内次長が「プラスチック資源循環と脱炭素について」、環境工学第二部小林課長が「し尿処理・汚泥再生処理と脱炭素社会」と題して講演。

11月6日～7日　第41回日本ペストロジー学会新潟大会
環境生物・住環境部橋本部長が「ハエトリグモのトコジラミ捕食行動」、皆川次長が「ピレスロイド系製剤のミナミツメダニに対する忌避効果」、數間係長が「吸血後トコジラミの体重変化」について発表。

11月7日　埼玉西部環境保全組合議会議員研修会
坂川専務理事が「一般廃棄物の最新の動向について」と題して講演。

11月10日・17日　災害廃棄物処理訓練等業務
東支局サステナブル社会推進部が昨年度に引き続き神奈川県で、西支局環境事業部が沖縄県にて実施。

11月12日・13日　第18回
川崎国際環境技術展
管理部にて出展し、センターの活動をPRしました。

11月18日　2025年度
災害時・避難所衛生リーダー養成講座
環境生物・住環境部が開催。参加者には講義、ワークショップを通じてDHEATや能登地震でのDMAT活動、避難所の環境整備・環境衛生等を学んでいただきました。

第61回ねずみ・衛生害虫駆除技術研修会 受講者を募集中です（オンライン併用）

トコジラミ（ナンキンムシ）は、カメムシの仲間です。ご存じでしたか？

開催日：12月2日(火)～12月4日(木)
講義内容や受講料についてはWebサイトをご覧ください。（日環センターHP内）

「プラスマ・アワード2026」取組事例募集中

海洋プラスチックごみの削減に関する事例を募集しています(～12月19日(金))。
全国の企業、自治体、団体（個人は除く）が対象です。
URL：https://plastics-smart.env.go.jp/award_26

ACAP 表彰ラッシュ！

ACAPは東アジア地域の酸性雨問題に取り組む組織として設立以来、酸性雨・大気汚染のモニタリングや研究等を重ね、より広範な大気調査研究に取り組んでいます。
第33回環境化学討論会では、情報管理部佐々木主任研究員（写真中央）と大気圏研究部二見主任研究員が環境化学論文賞を受賞。
また大気環境学会第66回年会では生態影響研究部佐瀬部長他2名が表彰を受け、畠山前所長は長年にわたる研究と大気環境学会に対する多大な貢献が認められ、名誉会員に推戴されました。
受賞内容については、詳しくはこちらから（ACAP HP）

日中間の環境協力に努めています

南川理事長は、9月29日に第四回日中環境ハイレベル円卓対話へ出席。議題二「環境対策の多層的な推進：地域の挑戦・都市の転換」のモデレータを務めました。中国から黄中国生態環境部長らが、日本からは浅尾前環境大臣らが出席しています。
また10月15日～16日には、中国の環境と開発に関する国際協力委員会（チャイナカウンシル）へ出席。理事長は「人と自然の調和ある共存の未来に向けて」と「新たな循環型経済の構築」のセッションに登壇し、発表を行いました。閉校式では主催者側からスピーチを求められ、本委員会で得られた共通認識と今後の課題について発言を行いました。

ゆく年 くる年　－2025年もお世話になりました　広報課より－

今年も残すところあとわずか。関係各位より賜りましたご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。
さて、2025年のニュースを振り返ると、大阪・関西万博開幕、ミスタープロ野球 長嶋氏死去、北川氏・坂口氏ノーベル賞、憲政史上初の女性総理大臣誕生etc.。「今年の漢字」には、世評では「米」「新」「熊」等が予想されていますが、様々なことがありました。

日環センターでは、職員の多様な働き方・考え方を尊重し、川崎駅前の新オフィスの開設や、センターのコンパスとなるものとしてMVVの策定等の改革が進められました。来年はさらに職員が輝ける年となりそうです。
皆さまの1年はいかがでしたか。楽しかったでしょうか。もし、少し暗い気持ちになってしまう方は、川崎大師へお参りいただいたのち、「あごが落ちるほど旨いキムチ」など召し上がって元気を補充し、素敵な新年をお迎えください。
来年も、どうぞよろしくお願いいたします。